

## 4. 葛西地域（南部）

### (1) 地域の概況

#### ① 地域の成り立ち

葛西地域（南部）は、区の南端に位置し、江東区、浦安市と隣接しています。荒川・中川と旧江戸川に囲まれた葛西橋通り以南の区域であり、地域南端は東京湾に面しています。

昭和30年代までは農業や干潟を活かした海苔づくりなどが営まれていましたが、昭和40年代の東西線の開通以降、葛西橋通り以南の地域で土地区画整理事業が活発化し、昭和50年代に入ると集合住宅や大規模公園が整備され、良好な住環境をもつまちへと発展しました。昭和60年代以降は、葛西臨海公園駅の開業や葛西臨海公園・葛西海浜公園の開園により、臨海部には、多くの人を訪れる新たなレクリエーション空間が誕生しました。平成30(2018)年には、葛西海浜公園が東京都内で初めて「ラムサール条約湿地」として登録されました。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場として使用されたカヌー・スラロームセンターが水上スポーツの賑わいを創出しています。

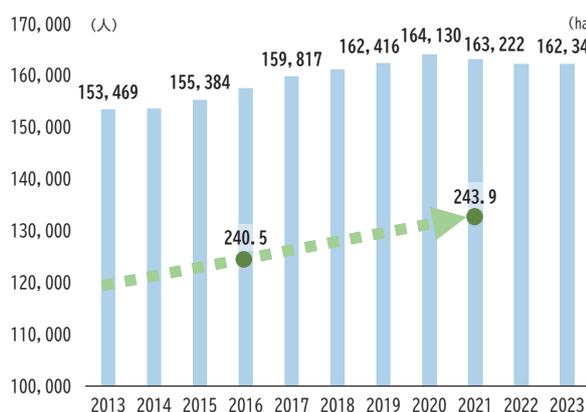


#### ② 人口・世帯

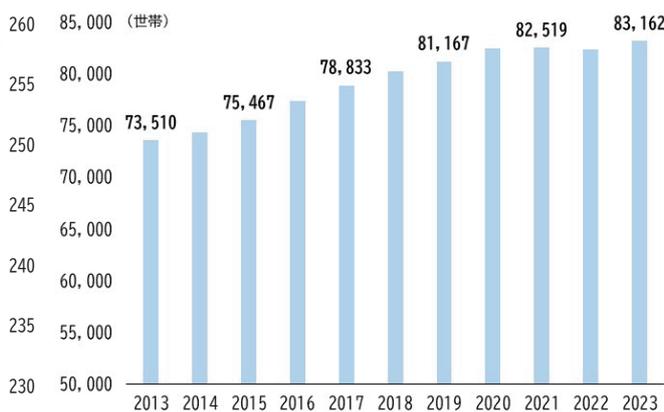
人口は、令和2(2020)年までは増加傾向にありましたが、その後減少に転じ、令和5(2023)年には162,341人となっています。ピークの164,130人から約2,000人減少しています。

世帯数は、令和4(2022)年はやや減少に転じましたが、全体的には増加傾向にあり、令和5(2023)年には83,162世帯となっています。

みどりの面積は、平成28(2016)年に240.5ha、令和3(2021)年に243.9haと増加しています。



葛西地域（南部）の人口推移と  
みどりの面積 (ha)



葛西地域（南部）の世帯数推移

③ 土地利用

- 葛西駅・西葛西駅周辺は、商業、集合住宅が混在する土地利用となっています。
- 環七通り沿道には、商業系の土地利用も見られます。
- 土地区画整理事業などが多く実施され、地域全体として、良好な都市基盤をもつ集合住宅が多くなっています。



凡例					
	官公庁施設		スポーツ・興行施設		公園・運動場等
	教育文化施設		独立住宅		未利用地等
	厚生医療施設		集合住宅		道路
	供給処理施設		専用工場		畑
	事務所建築物		住居併用工場		樹園地
	専用商業施設		倉庫運輸関係施設		水面・河川・道路
	住商併用建物		農林漁業施設		原野・森林
	宿泊・遊興施設		屋外利用地・仮設建物		その他

土地利用（葛西地域（南部））  
（令和3（2021）年度区部土地利用現況調査）

#### ④ みどりの現状

- 葛西臨海公園・葛西海浜公園や総合レクリエーション公園といった大規模公園が整備されており、公園・運動場などの占める割合が高くなっています。
- スポーツだけでなく、釣りや水辺でのバーベキューやデイキャンプなどのアクティビティや生物多様性拠点もあり、多様なみどりを楽しめる地域です。
- 本地域には54園の公園があり、このうち1,000㎡未満の公園は12園(22.2%)、1,000㎡以上2,500㎡未満の公園は17園(31.5%)、2,500㎡以上の公園は25園(46.3%)となっています。
- 本地域のみどりの目標に対する現状は以下のとおりです。

指 標	現状値
地域のみどり率	34.6%
区民一人あたりの公園面積(陸域)	8.4m <sup>2</sup>
身近な公園の充足率	93.3%

※ みどり率は平成30(2018)年の数値を使用



凡例			
	樹林		水面・河川・水路(草地)
	農用地(樹林)		公園・緑地(水面)
	原野・草地		農用地(緑被地以外)
	公園・緑地(樹林)		公園・緑地(緑被地・水面以外)
	公園・緑地(原野・草地)		水面・河川・水路(緑被地以外)
	農用地(草地)		
	農用地(緑被地以外)		
	水面・河川・水路(樹林)		

みどりの状況(葛西地域(南部))

## (2) これまでの取組

年	主な取組
昭和 6(1931)年	中川放水路（中川）開通
昭和 44(1969)年	東西線開通（葛西駅開業）
昭和 54(1979)年	東西線西葛西駅開業
昭和 58(1983)年	総合レクリエーション公園一部開園
昭和 59(1984)年	新左近川親水公園完成
昭和 63(1988)年	京葉線葛西臨海公園駅開業
平成 元(1989)年	葛西臨海公園・葛西海浜公園の一部開園 葛西親水四季の道完成
平成 3(1991)年	新長島川親水公園完成
平成 5(1993)年	総合レクリエーション公園開園
平成 6(1994)年	葛西臨海公園内に鳥類園開園
平成 9(1997)年	左近川親水緑道完成
平成 30(2018)年	葛西海浜公園が「ラムサール条約湿地」として登録
令和 元(2019)年	新左近川親水公園カヌー場完成
令和 2(2020)年	カヌー・スラロームセンター開設
令和 3(2021)年	東京オリンピックでのカヌー（スラローム）競技開催
令和 5(2023)年	魔法の文学館開館

## (3) 魅力と課題

### ① 魅力

#### 【レクリエーション空間】

- 葛西臨海公園には、水族園、鳥類園、大観覧車、ホテルなどの施設が整備されており、葛西海浜公園を含めて、東京湾有数のレクリエーション空間となっています。
- 総合レクリエーション公園は、西葛西駅前から東は旧江戸川に隣接するなぎさ公園までの東西約3kmにわたり、各種遊び場が連なる個性的な公園となっており、子どもが楽しめる環境が充実しています。
- なぎさ公園内には、「魔法の文学館（江戸川区角野栄子児童文学館）」が開設され、児童文学の素晴らしさを広く世界に向けて発信し、子どもたちが自由に本を選び、手にとって親しむことで、夢のふくらむ豊かな想像力を育むことができる場を創り出しています。
- フラワーガーデンのバラ園やなぎさ公園のツツジ園では、花の見頃の時期には多くの人々が訪れ、賑わいの場となっています。
- 令和元(2019)年に新左近川親水公園カヌー場が完成し、四季折々の自然と触れ合いながら、豊かな水辺に親しめるカヌースポーツの拠点が整備されました。初心者から競技者まで幅広い層がカヌーを楽しむことができます。

### 【みどり豊かな空間】

- 荒川・旧江戸川沿いの緑道は、水とみどり豊かな快適な歩行空間が形成されています。
- 新左近川親水公園周辺には、左近川親水緑道、新長島川親水公園が整備されています。新左近川親水公園では釣りが楽しめ、水辺でのバーベキューやデイキャンプが楽しめる広場も設置されています。
- 計画的な市街地整備が行われた地域であるため、公園などの都市基盤が充実しています。

### 【豊かな生物多様性】

- 葛西海浜公園沖合の自然干潟である葛西沖三枚洲は、東京湾に残された貴重な自然空間となっており、ラムサール条約湿地にも登録されました。
- 葛西海浜公園は、ラムサール条約の9つの基準のうち、次の3つを満たしています。
  - 基準4 生活環の重要な段階を支える上で重要な湿地  
スズガモ・カンムリカイツブリが該当
  - 基準5 定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地 ガンカモ類が該当
  - 基準6 水鳥の1種又は1亜種の個体群の1%以上を定期的に支えている湿地  
スズガモ・カンムリカイツブリが該当
- 小規模な生物多様性拠点も多くあり、仲町公園では、小規模なビオトープにヨシが生え、水生生物やトンボの生息地となっています。清新町緑道の一面にはバタフライガーデンが整備され、様々な種の蝶が集まる空間が整備されています。また、食草植物としてミソハギ・ミカン、吸蜜植物としてランタナ、百日草、ユリオプスデージーを植栽しています。自然保護や環境教育の目的づくり、訪れる人に蝶の生態や環境について学ぶ機会を提供しています。



バタフライガーデン



葛西臨海公園

## ② 課題

### 【都市基盤整備、防災への配慮】

- 東葛西付近は、大半が「区画整理事業を施工すべき区域」に指定されており、狭い道路が多く、公園や広場が不足している公園不足地域が多く存在しています。まちづくりに合わせて、防災の視点から、グリーンインフラなどによるみどりの充実が必要です。

### 【老朽化した大規模公園の更新】

- 総合レクリエーション公園や葛西臨海公園など開園後30年以上が経過した公園は施設の老朽化が進んでいます。これらの大規模な公園をこれからも地域の顔として活用していくためには適切な更新や維持管理が必要となります。

## (4) 地域の将来像と方針

### ① 将来像

海をのぞみ、豊かな水・みどり・生物多様性が広がるまち

### ② 方針

#### ◆総合レクリエーション公園や葛西臨海公園・葛西海浜公園など、

地域の顔となる公園を活用したみどり機能の拡充

- 総合レクリエーション公園をみどりの拠点、葛西臨海公園・葛西海浜公園を自然交流拠点及び生物多様性拠点と位置づけます。両公園にはそれぞれ特徴となる施設や遊び場が整備され、区外からも多くの来訪者がみられます。総合レクリエーション公園においては、地域の顔として、公園機能の拡充、適切な更新や維持管理など、みどりの計画的な整備などを進めていきます。

#### ◆豊かな自然環境を活かした生態系の保全とエコロジカルネットワークの形成

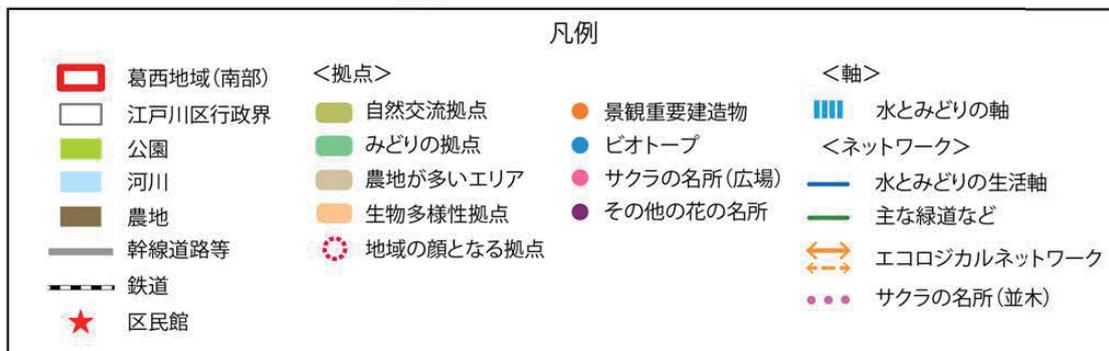
- ラムサール条約湿地に登録された葛西海浜公園は、生物多様性拠点として保全に努めます。ラムサール条約は、湿地の「保全・再生」とともに「賢明な利用」を目的とし、これらを促進する「交流・学習」を基本理念としていることから、本公園においても、基本理念に沿った取組を実施していきます。
- 荒川・中川と旧江戸川では多様な生物が確認されており、生物の生息空間を引き続き保全・育成していきます。
- まちなかには大規模公園や親水緑道、親水公園が多く整備され、豊かなみどり空間が広がっています。エコロジカルネットワークや生物の生息空間を意識した整備を促進していきます。
- 仲町公園のビオトープや清新町緑道のバタフライガーデンなどの小規模な生物多様性拠点においては、引き続き生物の生息・成育空間を考慮した維持管理を進めます。

#### ◆親水空間を活用した環境づくり

- 左近川親水緑道、新左近川親水公園、新長島川親水公園周辺を、自然交流拠点と位置づけます。特に新左近川親水公園では、みどりや水辺に親しめるレクリエーション空間が豊富に整備されているため、さらなる賑わいが生まれるような工夫や、機能拡充などを検討していきます。
- 新左近川親水公園では、水辺の賑わいを生み出す空間を整備し、みどりの中で水上スポーツを楽しめる拠点を形成します。

#### ◆公園を活用した防災機能の強化

- 総合レクリエーション公園などの大規模公園には災害に備えた施設などが整備されており、発災時の災害対応や平時の防災訓練などに活用し、地域防災力のさらなる向上を図ります。
- 東葛西付近では公園が不足している地域があり、まちづくりに合わせ、防災に寄与するみどりの拡充など、機能の強化を図ります。



みどりと生物多様性の方針図(葛西地域(南部))